

大学の世界展開力強化事業（平成23年度採択）中間評価結果

大 学 名	東京大学
タ イ プ	A-I
構 想 名	公共政策・国際関係分野における BESETO ダブル・ディグリー・マスタープログラム

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価) A	これまでの取り組みを継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
<p>(コメント)</p> <p>本プログラムは、東京大学、ソウル大学校及び北京大学の3大学でコンソーシアムを形成し、公共政策・国際関係分野におけるダブル・ディグリー・マスタープログラムを開発・展開することによって、質の高い大学間交流事業を推進し、日中韓3カ国の異なる文化・視点から横断的に学び、東アジアに関するより深い専門性を磨き、相互に理解する人材を育成することを目的としている。</p> <p>事業目的の達成に向けて、3大学連名による学生交流覚書の締結、各大学間でのダブル・ディグリーに関する覚書の締結、協働教育に関する3大学合同会議の開催、学生の相互派遣・受入の実施など、着実に計画が進捗している。</p> <p>ダブル・ディグリーを目指す日本からの派遣学生に対しては、プログラムの理解を促進するため、入学前に説明会を開催するとともに、派遣学生のみならず受入学生に対しても、科目、修了要件、単位認定などの入学後の履修相談に加え、留学経験者との情報交換会を開催するなど、学生の不安を取り除き、修学意欲を高める工夫を行っている点は評価できる。</p> <p>英語による授業や指導など、英語で履修し、修了できるダブル・ディグリープログラムであるが、当初の養成すべき人材像を踏まえ、日中韓3カ国の文化や慣習、歴史・社会の特性をより深く理解するために、各国の言語学習を奨励することで語学的素養を育成しており、留学後も言語学習を継続させている点も評価できる。</p> <p>更に、平成25年4月より「キャンパスアジアコース」を開設して学生を募集するという積極的な取組がなされており、入学者の選抜方法を工夫し、ガイダンスを効果的なものとしていることから、本プログラムの事業目的の達成について、実現可能性を高めている。</p>	